

情報漏えい対策、誰がどうやって行うか がんばらなくても管理できる方法がある！

業務に役立てるために導入したコンピュータ機器。正しく使われているかどうかをチェックし、安全に使い続ける仕組みを整えるのは会社として当然のことだ。

にもかかわらず、「費用がかかるとは困る」などの理由から、担当者を決めたのを良いことに当人任せにしてしまっていないだろうか。ITにそれほど詳しい人材がおらず、運用管理に使える時間が限られている企業では十分な対策を行うことができない。

管理ミスが問題を招く 会社としての対応を

実は、情報漏えい事故の多くは社内の管理ミスから生まれるといわれる。システムの運用管理が不



ないかどうかについては、いつでも正確に把握できるようにしたい。こうしたニーズに応えるのが「運用管理ツール」と呼ばれるソフトウェアである。

運用管理ツールは 使いやすさで選ぶ

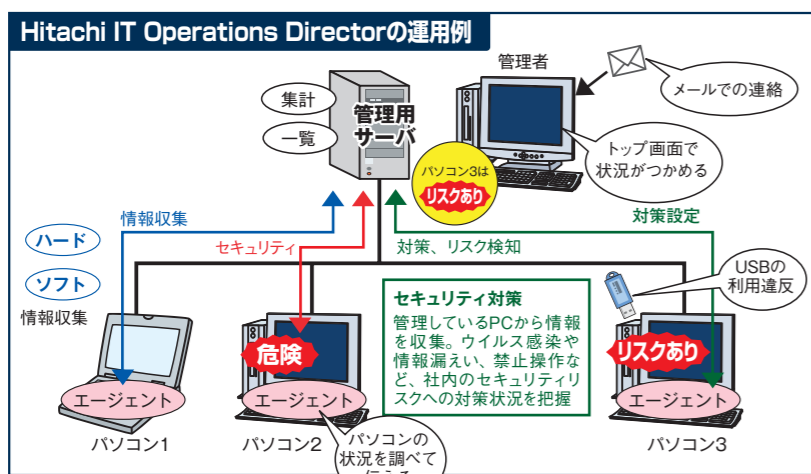
運用管理ツールの選定に当たっては、担当者がITに詳しくなくても活用が容易か、経営者が画面を見る場面もあるのでレポート結果がわかりやすいか、そして、費用が適正かなどを見極めるとよい。

この条件を満たす運用管理ツールが、日立製作所の「Hitachi IT Operations」(ヒタチ・アイティ・オペレーションズ)である。PC管理ツール

パソコンを巡回し レポート、記録、抑止

ではPC管理ツールの「Hitachi IT Operations Director」では、どんなことができるのだろうか。

まず、エージェントと呼ばれるソフトが、ネットワークにつながったパソコンの情報を収集



ハードウェアやOS、ソフトなどの資産管理、セキュリティ対策について各情報をレポートする。情報漏えいに直結するUSBメモリーの利用や印刷については、操作禁止の設定、禁止行為の抑止などを行うことができる。

さらに、情報漏えいリスクのある操作が行われた場合に管理者に通知したり、操作を記録・追跡することも可能だ。

どの企業も気になる情報漏えい対策には、従業員一人ひとりが情報漏えいにつながるような操作をしないことが第一。「Hitachi IT Operations Director」では、情報漏えいにつながるような不審な操作が行われた場合、そのログを元に内容を確認することができる。お知らせはホームページに掲載されるが、いつも画面を見ていなくても大事なことはメールで知らせてくれるので便利だ。

お問い合わせ先
株式会社 日立製作所
ソフトウェア事業部
0120-55-0504
http://www.hitachi.co.jp/itoperations/director/

情報セキュリティ
セキュリティ運用管理システム

Hitachi IT Operations Director (PC管理)

対象	クライアントパソコンの資産、ライセンス、セキュリティ管理を行う
提供機能	資産管理：機器、資産、ソフトウェア管理 セキュリティ管理：ユーザー操作ログ、USB/印刷抑制等 配布機能：ソフトウェアインストール/アンインストール、一般ファイル配布 レポート：セキュリティ詳細レポート、機器詳細レポート等
費用 (基本構成)	基本ライセンスパック：税込 420,000 円 (100 台)* サポート：税込 189,000 円 / 年 (500 台まで)

*管理対象とする機器の台数に応じてライセンスを追加してください